

第 11 回人間科学研究フォーラム

概 要

人間科学部では、「人間」にかかわる研究を進める他学部、センター等の教員及び地域の自治体・企業・施設等と連携した研究体制を構築することにより、地域で生活する人々がかかえる様々な問題の解決に向けて研究活動の活性化を推進するため、「人間科学研究フォーラム」を開催することとしています。今回は、人間社会科学研究科との共催、法文学部山陰研究センターの後援をいただき開催いたしました。

第 11 回目今回は「人口減少中の島根で医療・福祉職の未来を考える一人材確保・定着のために一」というテーマで基調講演、シンポジウムを行いました。

はじめに、淑徳大学総合福祉学部教授の結城康博先生から、「人口減少社会島根で福祉・保健・介護を考える」と題して基調講演をいただき、2035 年に向けた介護人材不足の深刻な現状と、これからの事業所経営には「利用者ファースト」から「職員ファースト」への意識転換が必要であること、また福祉・医療・介護を「負担」ではなく地域の「投資」と捉える重要性についてご講演いただきました。

次に、シンポジウムでは本学卒業生で現場にて活躍する 2 名より報告がありました。合同会社春咲花代表の井上浩一氏からは、ハラスメント対策等の職場改善が事業継続につながる実践報告を、島根大学医学部附属病院の村田美咲氏からは、地元島根で働く意義や地域理解の重要性をお話いただきました。続くディスカッションでも、人材確保に向け活発な議論が展開されました。

記

日 時：令和 7 年 7 月 2 日（水） 14：00～17：00

会 場：島根大学松江キャンパス 大学ホール

テーマ：「人口減少中の島根で医療・福祉職の未来を考える

一人材確保・定着のために一」

【基調講演】

「人口減少社会島根で福祉・保健・介護を考える」

淑徳大学総合福祉学部教授 結城 康博 先生

【シンポジウム】

シンポジスト

・合同会社 春咲花 代表社員 井上 浩一 氏

・島根大学医学部附属病院医療ソーシャルワーカー 村田 美咲 氏

（司会：島根大学人間科学部福祉社会コース 武子 愛）